

# 金型製番の運用方法の改善について

2023/6/12

金型・工具課 用水原

金型工具課仕上げ担当の用水原です。

今年の2月から金型のメンテナンスや修理のスケジュール管理と指示書発行の業務を多能工化と作業時間の平均化を目的とし引き継ぎました。

今回、引き継いだ作業の中で、関係部署の協力で改善出来た内容について報告します。

## ●製番とは

金型課で受注時より使用している固有の番号で、量産後に製品名や品番が変わっても識別できるように固有の番号(製番)となっています。

この製番は、作業指示書をスケジュール管理、作業時間の集計などにも使用している重要な物です。

## ●今回の問題

金型課では 上記の製番は作業管理する重要な物でしたが、他部署から発行される金型改修依頼書の製番部分の記載がない事、発行物に記載された製品名には量産開始時にメーカー様により正式決定されたもの、客先での呼び名、途中で変更されたケースなど 各部署によって製品に対する呼び名が違っており、照合させる作業が必ずありました。従来のやり方は製品名からメーカー・製品を経験より判断し、台帳から製番を探し出し、スケジュールソフトや作業指示書に入力する工程でした。複数のExcelを開き 型名・製番の照合を スケジュールの入力や指示書発行のたびに行うので 経験値で判断が多くなる部分について 不慣れな私は苦労しました。

## ●改善について

まずは過去一年間に使用した製番と製品名の一覧を作成し、定期的にメンテナンスのある金型は探しやすくしました。これにより 探し出す手間はかなり少なくなりました。

さらに、従来からの手配依頼物。成形課からのメンテナンス計画、生産管理課からは 金型改修依頼書に 作成した一覧より金型製番の記入を行ってもらえないかと考え、作業負担にならない方法はなど 担当者と相談した結果 製番入りの手配をしてもらえることになりました。

その結果 私の業務効率が向上しただけでなく、依頼される金型認識のズレが無くなる副産物も生まれました。

作業効率に関しては 私のスケジュールの入力作業に要していた時間は **3時間**から **45分**ほどに短縮することができまた、スケジュール表の作成がコピペで出来るようになったので、誰でも出来ます。(作業の簡略、標準化)

### ●追加(11/30)

12/5(月)～12/7(水) 変形対策、ミガキ(メンテも)  
20,063ショット/30,000(12/5)

12/6(火) でき次第 28,548ショット/25,000(12/6)

12/7(水) でき次第 26,498ショット/25,000(12/7)

12/12(月)～12/16(金) 24,164ショット/30,000(12/16)

12/12(月)～12/23(金) メンテ、23年データ  
27,385ショット/30,000(12/23)

3/3(金)

40,151ショット/50,000(3/2) / JDE J59K

●変更(3/7)

3/8(水)～3/16(木)

メンテ、スリットボアアップ  
27,199ショット/25,000(3/7) / HFH

3/10(金)

27,199ショット/50,000(3/9) / JCZ J72A

型式と製番が追加されました。  
これによりコピペで誰でも入力  
出来るようになりました

品名、成形会社、製番	登録日	サンプル	木 25	水 26	木 27	金 28	土 29
社内 HGW							
カワイ彫刻工芸 DCA	20230328						ガス溝、R付: 29 29
カワイ彫刻工芸 HGK	20230330						
カワイ DBZ	20230516★◆						
磨き指導							29 29 ④
社内 SCI	20230410 SE-1696	名古屋 精密様 にて	26	26 スライドRH「A」			
社内 3AQ	SK-200 20230518		22				メ
社内 HGU	20230523★◆		24		金型確認（日程仮） バルブピンの確認は急ぎ		
岩井化成 HGD	20230428★ H-305★		24		メンテ		29
社内 HFG	20230420★			26 メンテ			
社内 HFG	20230420★		24				

※がんすけというスケジュールソフトを使用しています

### ●今後の活動について

今取り掛かっているのは、金型ごとのトラブルの履歴を見やすいようにしようと、まとめ始めました。  
修理原因の分析と対策を明確にし、新規・類似型作成時に、トラブル対策を盛り込んだ金型を作ることを目的としています。

また、作業指示書の改善も開始しています。作業指示書に過去のトラブル・注意点を記載することで 確認作業の標準化をし、安定したトラブルの無い金型を維持できるようにしたいと思い活動を進めています

最後に今回の引継ぎはOJTの手法として指導していただきましたが、自分自身がOJTという手法を知らずに進めていたようで、指導方法、作業の標準化など 調べるきっかけになりました。後輩への指導等は自分の体験を踏まえ、調べたOJTの内容や作業のマニュアル化、個々のスキルに合わせた指導方法(ティーチング・コーチング)を取り入れていくために いろいろなことを学習し身に着けていきたいと思います。